

みつばちと太陽と珊瑚からの贈り物。



宮古島マンゴー農園

長北ファーム

【お問い合わせ】

合同会社 長北ファーム

〒906-0012 沖縄県宮古島市平良字西里577-2番地

Tel:0980-77-7488 Fax:0980-77-7488 携帯電話:090-1942-3439

# 宮古島マンゴー農園 長北ファームの日々

毎年、年末から年始にかける頃

マンゴーの花のつぼみが見え始めます。

この時期から収穫に向けて

農園が一気に活気づいていきます。

マンゴーの成長は早く、

どんどん花を咲かせて実を付けます。

花房の数や受粉の様子、

実の形や大きさなどを意識しながら

私たちは作業を行います。

山がなく高い建物もない宮古島に

吹きすさぶ強風や

何度もやって来る台風、

猛烈な暑さの中での作業は

厳しくもありますが、

おいしいマンゴーを

実らせるために努めています。

そして収穫されたマンゴーが、

お客様に喜びとともに

迎えられることを願いながら、

日々私たちは作業を行っています。





**五感で味わうような、おいしいマンゴーを。**  
美しい色彩、芳醇な香り、とろけるような食感、濃厚な甘みに適度な酸味。長北ファームでは丁寧な時間をかけて、果実本来のおいしさをいっばいに引き出すマンゴーづくりをしています。

**島人の愛情がたっぷり込められたマンゴーです。**

マンゴーを育てる上で管理と手入れは欠かせません。その中でも重要なのは、実を吊る作業と袋かけです。実吊りをするにより全ての実に太陽の光が行き渡るの、色付きが良くなり実が大きく成長します。袋かけは、マンゴーが樹上で熟して自然落下したときに傷まないようにするためです。どちらにも、ひとつひとつのマンゴーに丁寧な作業します。



樹上で完熟して収穫したマンゴーは、追熟の具合を見計らって梱包し、お客様のもとへ出荷します。



# MIYAKOJIMA MANGO

～ 宮古島マンゴーが美味しい理由～



宮古島は沖縄本島から南西約300kmの位置にあり、東洋一と言われる美しい海で有名です。中でも前浜ビーチは日本のベストビーチNo1に選ばれています。

**珊瑚礁** が隆起してできた宮古島は、カルシウムをはじめとするミネラルたっぷりの地下水とそれが浸み込んだ土壌があります。この水と土はマンゴーの成長を大きく促してくれるのです。さらに長北ファームでは減農薬・有機的栽培に取り組み、より甘くおいしい果実になるよう努力しています。

**亜熱帯** に属する宮古島の平均気温は23℃。沖縄本島よりもさらに1～2℃平均気温が高いのです。マンゴーを国内で栽培するためにはビニールハウスの中で暖房を使うことが必要だと言われていましたが、恵まれた気候の宮古島では太陽の熱のみで栽培しています。暖房を使用することなく自然のまま完熟したマンゴーは、豊かな甘みと美しい色彩を持った果実になります。

**ビニールハウス** の中でマンゴーを栽培していますが、その理由は保温のためではなく、雨風から防ぐためのものなのです。宮古島では、時折スコールの様な強い雨が降ります。また、毎年台風の通り道にもなってしまう。雨が直接降りそそぎ受粉時期に花が散ってしまったり、強風で果実が落下したり傷つくのを防ぐためにビニールハウスでマンゴーを守っているのです。

**熱帯果樹の王様** と称されるマンゴーですが、それには理由があります。宮古島のマンゴーが15度から18度の糖度を持ちながらも上品な味わいなのは、甘みの中に適度な酸味があるからです。さらにベータカロチン・ミネラル・ビタミン・カリウムを多く含み、栄養バランスも良く、糖度が高い割にカロリーが控え目。おいしいだけでなく、栄養もたっぷりで、まさに「熱帯果樹の王様」なのです。



マンゴーの花が満開の頃、ハウスではミツバチが元気に飛び回っています。マンゴーには一本の樹に沢山の花房があり、ひとつの花房だけで千の花を咲かせます。しかし、花が咲いても受粉しなければ実が大きく育ちません。長北ファームでは受粉の媒介昆虫として、ミツバチに活躍してもらっています。花が咲き始めると、各ハウスに巣箱を置きます。そして餌の世話や巣箱の手入れ、ミツバチに適する温度管理など養蜂家さんさらに面倒をみます。そうすることによってミツバチが快適に活動して、花から花へと飛び回り、マンゴーの実を付けてくれるのです。



ハウスの周りにはタチアワユキセンダングサが自生していて、ミツバチの蜜源になっています。受粉が終わると蜂蜜を採取をして、巣箱を飼育場へ戻します。

